

## 熱田南界隈を歩く ～あつたM×M～

正月の人出が250万人と言われる熱田神宮は、日本武尊ゆかりの草薙の剣があるとか、そもそも1900年の歴史があるらしい。先日、その正門（南側の門）から南の界隈を散策してみたところ、地図だけではわからない、意外な発見があった・・・

### 正門から南下する

正門から南西に延びる道（旧門前通り？）は、国道1号線のやや南側で東から延びてきた旧東海道にT字型でぶつかり、さらに国道247号線を超えて堀川端まで続いている。正門からT字型でぶつかる場所までが旧美濃路、そこから堀川端は旧東海道で、その堀川端こそがいわゆる「宮の渡し」である。

つまり、現在でも熱田神宮正門から宮の渡しはビジュアル的に一直線でつながっているものの、いざ歩こうとすると2本の国道をまたぐ必要がある（実際には国道247号線にしか歩道橋がないので、一直線には歩けない）。ちなみに国道をまたぐ歩道橋を渡り切った右手（北側）に「ひつまぶし」の有名店がある。このあたりは江戸時代に「宮の宿」として全国最大の宿場町だったらしい。



「T字路」から熱田神宮正門を臨む



「湊」につながる旧門前通り

### そこには「湊」があった・・・

堀川端にある「宮の渡し」跡には公園があり、その手前に突然江戸時代っぽい建物が現れた。どうやら旧宿屋や旧料亭で、市の文化財にもなっているようだ。この旧料亭は今ではグループホームとして再利用されている。堀川を左手にさらに歩いて行くと「魚市場跡」があり、その向かいには妙に大きな庇（車がタテにすっぽり入るくらい）がある建物を発見。どうやらそこも魚市場の一角だったらしい。ついでに一本東の道を南下すると住宅街にタイル張りの洋風建築やレンガ土蔵（「レンガ蔵」が正解か？）がお目見え。意外にもレトロっぽいエリアがあった。

「宮の渡し」から次の桑名宿までは東海道唯一の「海のルート」、つまりこのあたりは江戸時代まではすぐ近くに海があったということ。確かに堀川というより、「海」っぽい気もする。こちらあたりは宮町というよりも「湊町」という方がしっくりくる感じ。

ということで、熱田は「宮」と「湊」があって、やりようによっては面白いマチになるかも、と感じながら、「あつたM×M」をあとにした・・・（終）



「海」を感じる「宮の渡し」

（エイト）